

 評価のポイント

CL-Ⅱ.ニーズを捉える力(精神科)

〔14-2〕精神科におけるフィジカルアセスメント（急変リスクへの対応：事例）

1. 精神科患者が誤嚥性肺炎やイレウスを起こしやすいのはなぜですか

精神科で使用される薬剤の影響として、嚥下・咳嗽反射の低下や鎮静抗コリン作用があり、誤嚥をしやすくなります。また、身体拘束による長期臥床、認知症やうつなどによる認知機能低下も嚥下障害を引き起こしやすいです。イレウスに関しては向精神薬の抗コリン作用により便秘が引き起こされ、長期的に下剤を使用することが原因と考えられます。

また、身体症状の訴えが曖昧だったり、言動が妄想に左右されていたりして判断が難しく、発見された時には重症化している場合があるという精神科患者の特徴を話合えると良いでしょう。

2. 誤嚥性肺炎のアセスメント、予防について説明してください

誤嚥性肺炎を疑った際にはバイタルサインの変化、肺雑音の聴取を行います。それをもとに SBAR を用いて報告できると良いでしょう。スライド 15 の内容について事例を交えて話し合えると理解が深まります。

3.イレウスのアセスメント、予防について説明してください

イレウスを疑った際には嘔気、嘔吐、食事量、腹部の聴診・打診を行います。その変化について答えてください。予防策はスライド 23 の内容について事例を交えて話し合えると良いでしょう。